

3月18日 (金)

午後6時～9時

資料代500円

場所：港区立商工会館2階・研修室

東京都港区海岸 1-4-28 / TEL03-3433-0862 JR 浜松町駅北口徒歩 7 分



《学習会》

いま、なぜ「重慶爆撃」か？

講師 前田哲男さん (軍事ジャーナリスト)

著書：『戦略爆撃の思想—ゲルニカ・重慶・広島』（凱風社）、
『自衛隊—変容のゆくえ』（岩波新書）、
『「従属」から「自立」へ 日米安保を変える』（高文研）ほか



抗日首都・四川省重慶に加えられた3年余にわたる空中爆撃。それから80年も経つのに、「重慶」は（「ゲルニカ」とともに）つねに新しく私たちに語り継ぐことをもとめる。なぜなのか？ この地にはじまった「無差別都市爆撃」「空からのテロル」「標的にされる民衆」の手法が私たちに衝撃をあたえるのであり、なお現代戦に継承されている事実を知っているからだ。風化させてならない記憶としての「重慶爆撃」の今日性について考える。

忘れられた錦州爆撃

講師 瀬瀬厚さん (山口大学名誉教授)

著書：『戦争と弾圧』（新日本出版社）、
『重い扉の向こうに：歴史和解と戦前回帰の相克』（緑風出版）、
『総力戦体制研究 日本陸軍の国家総動員構想』（社会評論社）ほか



1931年10月8日、中国東北地域の軍事占領中に実施された錦州爆撃。関東軍陸軍飛行隊による日本最初の無差別爆撃として歴史に刻まれる。それは、第一次世界大戦期、欧州で繰り返された無差別爆撃が、アジアの地に転写された瞬間だった。空爆事例は、その後上海をはじめ中国各地に飛び火し、やがて大規模空爆としての重慶爆撃へと繋がっていく。その関連性を念頭に据えつつ、錦州爆撃の記憶を呼び戻し、歴史的位置を探りたい。

◇ 5月21日 (土) 講演会 (資料代 1000 円 **Zoom参加も可能です** !!) のお知らせ

場所：港区立産業振興センター・大ホール 港区芝 3-36-4 札の辻スクエア 11 階 / TEL03-3578-2558 田町駅 4 分
講演前に午後 1 時～1 時 45 分「NPO 法人重慶大爆撃を語り継ぐ会」（略称）の**総会** (第 1 回) を行います。

午後2時～5時 講演会: 「日本の戦争と空襲の記憶」

講師 吉田 裕さん (一橋大学名誉教授／東京大空襲・戦災資料センター館長)

主催 **NPO法人 都市無差別爆撃の原型・重慶大爆撃を語り継ぐ会**

2022.2.24

共同代表 伊香俊哉 (都留文科大学教授)、前田哲男 (軍事ジャーナリスト)、瀬瀬厚 (山口大学名誉教授)
栗遠奎 (重慶爆撃犠牲者遺族)、馬蘭 (成都爆撃犠牲者遺族)、雷時仁 (梁山爆撃犠牲者遺族)

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-21-5 一瀬法律事務所 (担当元永) TEL03-3501-5558, FAX03-3501-5565

E-mail: info@ichinoselaw.com Web サイト <http://www.anti-bombing.net> ブログ <http://blog.goo.ne.jp/dublin-ki>

▼郵便振替口座 口座番号：00190-5-728232 口座名：NPO 法人重慶大爆撃を語り継ぐ会